

令和5年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>① 授業の質と量の確保・向上を図るとともに、学校設定教科「共創・探究」をハブ（接続拠点）に情報活用能力、問題発見・解決能力、論理的思考力を育成し、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。</p> <p>② 知・徳・体のバランスの取れた教育の実践を通じて、豊かな感性を育み、世界を変えていけるような高い志を持った生徒を育てる。</p>	<p>① SSH事業に係るこれまでの3年間の取組を振り返り、生徒の取組や学習成果を評価する手法の開発や改善、整理をすることで、今後の探究学習の深化につなげていく。</p> <p>② 企業や大学等との連携や国際交流を通じて、生徒一人ひとりの「主体性」を育成し、将来を見据えた高い志を支えていく。</p>	<p>① 大学等との連携により専門職人材の支援を得て課題研究の指導を充実させるとともに、ルーブリック評価等、有効な評価手法の開発や改善を進める。</p> <p>② 生徒一人ひとりが外部資源に積極的にアクセスし、自らの考えを広げ深めることができたか。</p>	<p>① 研究機関や企業との連携を拡大させ、外部人材を活用するとともに、有効な評価方法を検討・実施して生徒の育成状況を見取ることができたか。</p> <p>② 生徒による授業評価において「他者の考えを知るなど、新たな考え方を広げ深めることができた」と回答する生徒の割合が50%を超えたか。</p>	<p>① 単元計画や評価に係る研修会を開催し、探究学習における評価方法等について教科を横断した議論の活発化を図ることができた。</p> <p>② 生徒による授業評価において「自らの考えを広げ深めた」と回答した生徒の割合は45%強であり、50%を超えるには至らなかったものの、海外研修等各イベントに参加した生徒からは満足度の大きさが確認できた。</p>	<p>① 教育課程の改善と評価方法の確立等、SSH事業に係る第二期指定に向けた申請の準備を加速させる。</p> <p>② 各イベントをより充実させる等、対話的な学びの場をさらに創出するとともに、生徒が外部資源にアクセスするよう一人ひとりの積極性をさらに引き出していく。</p>	<p>① SSH事業に係る二期目の申請に向けて職員が一致できたことは素晴らしい。 ・中間評価を踏まえて、二期目は何をを目指すのか、一期目から何が変更となるのか明確になると良い。 ・授業改善について、先生方の取組が功を奏しており、努力の賜物と考えられる。</p> <p>② 現在の取組をさらに確実に、また迅速に進めて欲しい。 ・授業にディスカッション等を多く取り入れるなど、日々の授業をより楽しいものにする工夫が望まれる。そうすることで近隣の小中学生への良いアピールにもなると思う。</p>	<p>① 共創・探究科において蓄積してきた研究成果が他教科全体に広がり、情報活用能力、問題発見・解決能力、論理的思考力を育む実践が学校全体で行われるようになった。SSH二期目の指定に向け、評価方法の開発や整理を進めることができた。 ・設定したテーマに沿った研究が進み、探究学習に関わる単元計画の策定や評価方法の確立を目指した取組が進んだ。</p> <p>② サイエンスインターンシップや海外研修、オンラインを活用した海外交流等、対話的な学びの場を創出することで、生徒の視野を広げ、発信力を育むことができた。一方で各イベントに参加する生徒数は限られており、より多くの生徒が積極的に外部資源にアクセスする仕組みを構築する必要がある。</p>	<p>① 研究開発グループを軸として、第二期SSH事業の方向性を確定させ、教育課程を修正するとともに、この四年間の取組を踏まえて探究学習に係る実践例と生徒の育成状況を見取る評価方法を整理し、二期指定に向けた申請の用意を進める。</p> <p>② 海外研修の効果は大きいものの、直接の恩恵を受けるのは一部の生徒に限られてしまう。今後は、多くの生徒が海外とつながる機会を設定していく。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>① 社会の一員としての規範意識や公共心を持ち自覚ある行動がとれる生徒を育てる。</p> <p>② 健やかな身体といのちを尊重する自己理解及び他者理解ができる生徒を育てる。</p>	<p>① 道徳教育の充実を図ることで、日頃から基本的な社会マナーを守る態度を身に付けさせる。</p> <p>② 生徒が抱える課題を早期に発見し、関係する教員が情報共有し組織的かつ迅速に対応する。 ・教科外活動を通じて、生徒の「主体性」を育成する。</p>	<p>① 全校集会やHRなどで、自転車乗車マナーの指導を始め、自分たちが社会の一員であることを強く意識させるような指導を工夫していく。</p> <p>② SC・SSWとの連携を図りながら学校外の機関との情報共有を進め、課題解決を図っていく。 ・生徒の自主的、自律的な活動をきめ細かく支援する。</p>	<p>① 近隣住民等外部からの苦情を減少させることができたか。</p> <p>② ケース会議等を踏まえ、個々の事案に対する対応方針を迅速に決定し、保護者との協力関係を構築することができたか。 ・「魅力と特色づくりについてのアンケート」結果で、充実した教科外活動ができたとの回答が70%を超えたか。</p>	<p>① 自転車乗車マナーに関する近隣住民からの苦情は3件（昨年4件）であった。SNS使用のモラル違反等の生徒指導案件は0件であった。</p> <p>② SC、SSWと学年、養護教諭との情報共有を図り、生徒が抱える課題の早期発見と迅速かつ組織的な対応ができた。 ・アンケート結果から、充実した教科外活動ができたとする肯定的な回答は93%であった。</p>	<p>① 自転車事故の発生件数が10件（昨年7件）と増加傾向にある。入学当初から注意を促す必要がある。</p> <p>② SCとSSWの役割分担、学年との関係について、1年間の経験を踏まえ、さらに議論を進めて整理することが必要である。 ・教科外活動を通して、生徒のコミュニケーション能力を一層伸ばすことを目指したい。</p>	<p>① 事が起こってしまった際に、迅速な対応、謝罪など、生徒一人ひとりが責任のある行動を取れるかが重要である。</p> <p>② SCは心理分析等、SSWは具体的解決策の提案等、役割は違うものの、担当者それぞれのキャラクターもあり、実際の役割分担は難しいと思う。 ・アンケートにより、ほとんどの生徒が充実した教科外活動ができたと回答したことは本当に素晴らしいと思う。</p>	<p>① 自転車事故が増加傾向にあり、大きな怪我に至った事故も発生している。誠実な対応と命を守る意識について、入学当初から注意を促す必要がある。</p> <p>② SCとSSWの役割分担については一定程度の整理ができた。管理職との緊密な連携のもと、教員一人が問題を抱えてしまうことなく、迅速で組織的な対応をとることができた。今後、より効率的な運営の実現に向けた検討が必要である。 ・生徒対象の事後アンケートによると体育祭や江麗祭を通して、生徒一人ひとりが充実した教科外活動を経験できたとする割合は高かった。一方で学習との切り替えに課題があったとする割合も高かった。</p>	<p>① 富士見門の出入りも始まり、自転車乗車に関する指導については、集会での注意喚起や登校時指導により、益々徹底する必要がある。</p> <p>② いじめアンケートと今年度から新たに始まったかながわ子どもサポートドックの実施について、質問内容の精査、実施時間や場所の確保について検討が必要である。 ・生徒会行事や部活動などの教科外活動を通して、生徒のコミュニケーション能力を一層伸ばす工夫を検討していく。また、行事等の設定時期を工夫し、学習との切り替えが素早くできるよう促していく。</p>
3 進路指導・ 支援	<p>① どんな困難にも果敢に挑み最後まで諦めずに</p>	<p>① 進路実現に向かう生徒一人ひとりの高い志を</p>	<p>① 生徒に対して継続的な面接指導を行うとともに</p>	<p>① 難関国公立大学への現役合格者10名。</p>	<p>① 数値目標に到達することはできなかったものの、大</p>	<p>① 全体的に指定校推薦を希望する生徒が多い。</p>	<p>① 偏差値が全てではない。生徒のモチベーションを早くから育てる</p>	<p>① 模試等のデータを基にした面談やスタディサプリの活用を図ることにより、学力の定</p>	<p>① スタディサプリアを十分に活用するために、生徒に強く働きかけていく。また、面談週</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	難関国立大学等、個々の第一希望の進路実現に向けて力を尽くす生徒を育てる。	保ち、難関国立大学への現役合格者10名。スーパーグローバル大学への現役進学率25%以上を達成させる。	に、難関大学特別講座等を開催、入試に対応できる力を身に付けさせる。	スーパーグローバル大学への現役進学率25%以上の目標が達成できたか。	学入学共通テストでの得点は、他の進学重点校等と比較しても遜色なく、生徒の努力の跡が見て取れた。	生徒の高い志と挑戦する姿勢をどのように保つのが課題である。	ため、卒業生等の見識を生徒や保護者に伝える取組なども充実させたい。	着と向上を支援することができた。一方でスタディサプリのより効果的な活用方法と面談期間の設定方法等について生徒の高い志を保つ視点から工夫をする必要がある。	間の設定、講習と部活動との調整など、年間行事を見通して計画を立てていく。 ・同窓会の協力をいただき、早い段階から計画的に、充実した学部、学科研究を行っていく。
4 地域等との協働	① コミュニティスクール(学校運営協議会)の充実を図る。 ② 防災教育、防災体制を強化する。 ③ SSHの取組に係る連携を推進する。	① 目標の達成状況に関する校内評価をもとに、学校運営協議会で協議いただき、協賛会としての具体的な提言をまとめている。 ② 防災訓練のあり方や日頃の地域への関わりかたを再検討し、より効果的な地域連携を実現させる。 ③ 企業や研究機関との連携を広げ、SSH事業のさらなる深化に繋げる。	① 年度途中に目標の達成状況を確認し、スケジュール感をもったマネジメントを図る。 ② 地域と協働した防災訓練の実施、生徒会組織を活用した地域への働きかけを強化する。 ③ 連携可能な企業や研究機関等の開拓について、平塚市域を中心にさらに進めていく。	① 今年度の目標達成状況を踏まえ、令和6年度からの新たな4年間の目標設定に向けた見通しを立てることができたか。 ② 生徒会組織による地域ボランティア等が実施できたか。訓練の結果、諸課題を地域の方と共有できたか。 ③ 新たな連携先を開拓するとともに、連携の継続性を確かなものとするところできたか。	① SSH事業の二期目の指定を目指すことに合意形成ができ、令和6年度からの新たな4年間の目標設定について早い段階から議論を進めることができた。 ② 地域と連携した防災教育を実施することができ、実際の模様がNHKのWEB記事に掲載された。 ③ Google社、台湾林口高級中学、Kinnick High School等と連携することができた。	① 四年間の行動計画について、学校運営協議会での協議を踏まえて目標達成に向けた道筋を検討する必要がある。 ② 次年度以降も近隣住民と生徒が協働する防災教育を企画していく。 ③ 連携事業を持続的なものにしていく工夫が必要である。	① この場での議論をはじめとして、職場で議論を重ねて、令和6年度から始まる四年間の学校教育計画を立てて欲しい。 ② ・地域や市役所と連携して充実した良いものができた。 ・市役所からは、実際に能登半島へ派遣されている職員もおり、避難所体験等、リアリティーのあるものを伝えることができる。 ③ 連携先をさらに拡大させるため、同窓会等の協力も得ながら進めると良いのではないかと。	① 令和6年度から始まる新たな学校教育目標の設定に向け、校内議論を進めることができた。学校運営協議会での協議を踏まえ、SSH事業二期目の申請業務を始め、諸準備を進めたい。 ② NHKアナウンサーによる「ことばで命を守る」という防災教育のテーマが、1月に発生した能登半島地震に活かされるものであった。一過性で終わらせず、防災教育の継続と発展を目指す必要がある。 ③ 海外研修、留学生等の受け入れ、オンラインを利用した海外学校との交流など生徒の視野を広げる取組を進めることができた。今後も連携事業を充実させたい。	① SSH事業の二期目の指定を目指し、計画的に申請の諸準備を進めていく。 ② 防災教育における本校の取組を外部に発信するとともに、引き続き市役所及び近隣住民との協働による防災教育を充実、発展させていく。 ③ 同窓会と連携し、各界で活躍する方々の情報をデータベース化し、探究活動のゼミで研究を進める生徒が簡単にアクセスする仕組みを構築する。
5 学校管理 学校運営	① 安全・安心な教育環境を整備する。 ② 事故・不祥事の防止に努め信頼される学校づくりに邁進する。 ③ 教員のワークライフバランスを推進する。	① 北館トイレ工事をはじめ校内環境の整備を進める。 ② ハラスメントに係る事故等、不祥事案件を1件も発生させない。 ③ 時間外労働を始めとした職場環境の課題を職員間で共有し、健康増進に係る意識の向上を図る。	① 衛生委員会と連携し、教育環境について定期的に課題の改善状況を検証する。 ② 教職員が主体となった事故防止研修を企画する。 ③ 残業時間の抑制について研修の機会を設け、職員の意識改革を図る。	① 教育環境の改善状況を「見える化」することで職員の意識向上を図ることができたか。 ② アンケートの結果から、職員の不祥事防止に関する意識を確認する。 ③ 時間外労働時間の定期的な確認と産業医の面接指導を適切に設定し、残業時間の抑制を実現できたか。	① 衛生委員会を中心に職場環境の課題を挙げ、具体的な改善を図った。 ② 職員会議の終了後に不祥事防止に研修会を開くことを定例化した。 ③ 時間外勤務の状況を職員に知らせ、時間数の多い教員には産業医との面談を用意した11月以降、時間外勤務は縮小傾向にある。	① 校舎の老朽化、狭小さに起因する課題が検討課題として残った。職員室内のロッカーの整理を進める必要がある。 ② 職員主導による研修会の開催を軌道に乗せる。 ③ 引き続き、時間外労働の縮減に向け、衛生委員会による広報に努める。	②③ 学校の取組が功を奏して、幸いにしてこの間、不祥事は発生していない。これからも気を緩めることなく、研修等を進めて欲しい。	① 職員更衣室の環境改善、理科準備室の薬品保管、朝の遅刻連絡対応等、職場環境に係る課題の改善は、衛生委員会の主導により、一定程度実現した。不要物の整理を進め、職員室を中心として、引き続き職場環境の改善に努める。 ② 不祥事防止研修を定例化して開催することができ、参加した職員による議論も活発に行い、有効な研修となっている。 ③ ストレスチェックの結果から、ストレスの度合いが軽減傾向にある。引き続き打合せや会議の効率化、時間短縮等を図る必要がある。	① 職場環境の改善成果を記録し、「見える化」することで職員全体の意識向上を図っていく。 ② 不祥事防止の観点から、実効性のある働き方改革を一層進める。今後は若手教員を含めて職員主導による不祥事防止研修を企画していく必要がある。 ③ 職場環境改善について、衛生委員会を中心に定期的な議論と巡回を進め、年休の計画的な取得と時間外労働の縮減に向けた啓発に努める。